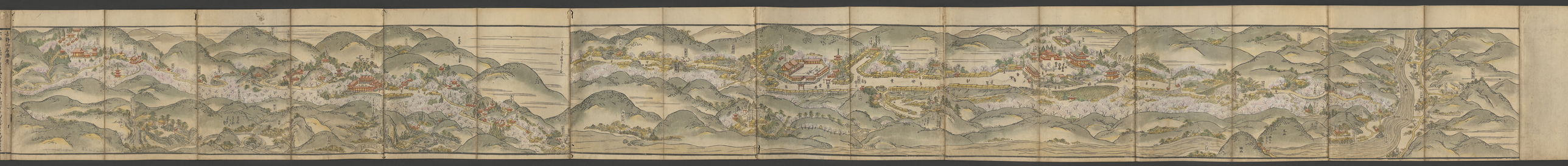
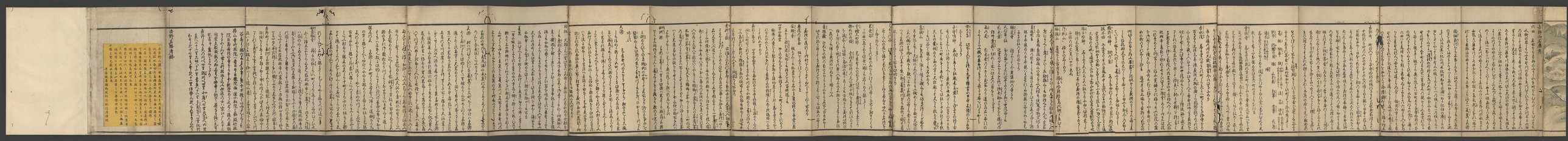
和歌芳野山櫻集

圖

樓神靈藪

廿白書

LIBRARY
Brigham Young University
RARE BOOK COLLECTION
Vault
895.6
K122s
1713
BRIGHAM YOUNG UNIVERSITY
1237 1487 2697 3

九州山云田の方門藤より奥の院まで百餘町の間民家なし所々に古石塔並木の樫あり又花木は桜も下枝有り花木のかげあり所々の谷々にも皆樫多し中にも二三月に花の世界と称つべし樫の谷毎に沙かくしてふかき谷の院にて花の藤の盛なる花咲て中の花盛に成る中の盛なる上の花咲て開く其間大凡三十日くらあり又咲樫に藤ともに開くを神樫にもさかりとも平咲なり九品山の樫は皆一色なり八重樫は山中及民家僧坊に一株あり今年風ふけば去年或風雨久しく後きの花の容色あり故に年によりて咲否あり古後の日此四年以前は今年ほど山の花盛多し昔は昔より少し山僧又曰九品山の花上中下一所なる不開しかれども大凡三十五日あるはを盛の盛中に多し里人数人に問ふに皆かくのごとし但年の寒温によりて盛衰あり毛町よりおの本の方より山れさし出さるあるを古郷の町よりおの本の方より九品山あるを九の谷の内まへより見たる右郷にて方二十町ばかりの内一面に花咲て皆花の林なり如何にきりたるつくいなるを雪のあけかのごとくいさかりにそなるあるを山下花のさかりにさいたるを見しかども

さかりなりしかども世のかれ物やあるやまの中にも樫は毛なきにたるさかりあるれ山のくらかりに又咲盛にありて見しかはすきに間なりたるあるとも見なかはよきなりの山下の花は咲盛なるを見なかはよきなりの山下の花は咲盛なるを見なかはよきなりの山下の花は咲盛なるを